連坂叢書

特別
イ4
696
143

696
143

目録

一 人倫訓蒙圖彙補遺
右八神谷三園先生〻筆跡ナリ

一 俳家年表

一 蓮月式部二女和歌集

一 從朔日至晦日 夜々月歌

一 [illegible]

人倫訓蒙圖彙補遺

人倫訓蒙圖彙補遺

序例

人倫訓蒙圖彙七巻頃人の編集するを聞く

人集めて圖をとゝのゝうを列する所の立

商京師の者皆此を京他江商に愛るを

見て之を集む事自大抵具れり極れる偶

所を遺すもの稀なり況や境界の及ばざる

所に於ては天下の廣き万物の繁多なるを如何

圖畫形似の巧拙を論ずるものあ

必京都の工商のみを限りて世を移すべきものと
書載せるときは世を移すべきものとして
邑ある所をもて補はんとあるべしと記せり鄙
見に今余が見
見る書見のあるを考へ補ふ事書出覽
きは大抵天下の工商一同なる書をへし御代書
はさるものを選とものを見るものの弱く後補ふ
事書の畧稾の載る所各皆高を徴と化業を別
別に列とす熟見るときは一例をなる所
見る因を於て破戒沿革のことを記はこれを削る所
破戒は常なる所為なれは皆一書を費り
さるものの形り附録を設るものは皆略して簡
要す
事書編とは上層を目あるく説を所多く
章布として編を遺すもんを為るきとして選るある
見るものの為を因を解り巻く者を編ふ又為を設る
をの書為り此未ぐ事を論をるものの乃を目を
巻く布所以
人民録数の簡繁記をるを階 巻頭前付
車階

階級（永楽山 あ嫌箱 松）等なり又日雇のもの及業なりといへども
法なりして為る事あり是一番れなるなり又 醫師
こと是れと以ふ所あり故身物のあるもと以て之を見るは
此れ亦一番の見なりこれ之のもの及商人あるを知
亦同部をなすべきを以て故階級中の闕く
所者の風俗及工部より收め商業を以業なる
職工等 他業とする人や出れる又別に一番のあり
人官業職の限りの如き出て四民の外如何ものあり
為に加ごれ一族義や 俱他業を以て收む他業とは
此す篤農 階は 舟 階 馬 階 一類とすこれ 年 人を造
て者す成ることを食を以ることなす 顧みるこれ 類
聚すつきあるん工商等の別は混淆一定
なる者 大工 左り 大工と以ふ 計類一なり 抱 も 多 工
亦別一番とす名目 を以て 補中 あり
稱呼 すして 事 同 ことあり
所洲 まくハ 男 あり 亦 古 流 西 美 四 買 ふ あり 男 女 同 ふ
されとも 同 商 ふ を以 目 を 日 ふ ことも
農業 唯一 な 是 り 工 と 商 と 唯 て 活 計 な 立 て き

るあらんを長とするもの多し必別なる業収るものあり書
中これらの事を考るに皆凡る所の作るに生業る是
るべきやうや問わべきあり
書業を天下同一なり工商の多きを以て商豆相似たる
事多し例如ば医者と遊所商と同じと作業は
同く工商を業とする相似たる事数多出来る部類を
作るもの数あり幸部分を以て
商家の一品あり作業のかきりかれ作せるもの
なり

其うるを以ては上品を織作るるあり山中商人屋
以ても他交易の商と同かるを工商如此るの程あり
故に弟子なるを誤るもの多し乃正を記す
弟子なるものの別なるあり
あり沙汰大坂の祝ば亦立て多べし 出地のゆく
用不用自是拾り門色の数多山本さるみる
さるあり京の商ひあり又各を郷の如くを
郷をかくり絵あるを拾数巻に同して事を凡る時ハ
同りさるものあり

人倫訓蒙圖彙補遺

藝類

鷹飼　銅刺　同醫師

武藝の名本出載るの外多くこゝに関らざる部分を以て今向集めて雑篇に補ふ

工類

泥師（泥塗造り柯為全器者）　鞦師　刀研（トギヤ）

鞦括　皆作（ぬり）　鞍作（かくや）　鞍師

筆墨師　茶磨師　羽帚師　石印彫

ニクヤ
墨師　綿帽子師　つゞら師　組紐師

面結師　鬢付油
珠数師　入歯師

袈裟衣師　指帽子　幡　天蓋
硝子器師　以香師　梅花

合薬師　墨流師　大鋸師　火口師

刻昆布師　膠師　線香師　簾師　縄簾

屋根　木地挽　板へぎ　ひぎ挽き

碁石碁盤師　附目ろう
茶筌　焙烙師

蒔絵師　絵の指味筆を製する
人大阪にて唯一家のみ
あらき物師　数　風呂敷しゆとう

塗物　右あるは塗物の品々ありて上層を大抵ありて　是にあきたらぬ
弁をなくいづれも表かめと書るは工商二ツあり　二ト

挑灯張　右此外にも、傘張これを兼ぬ、京地のうちには記述
右書傘張師別けあり或は別工なり

轆轤師　本師の実をとる、是亦此外にも、ハ此工事を作り又
指物師も轆轤之を出るとて係しあり　それとハ違あり

蝋燭師　近入師　蝋燭十四者此外始めて是を土臼作
作りもそまよりハあきたるや

苫師　帆師　指物師　縁かざり指

右同前ハ皆船の用に供す
其中にハあきたるものあり

破魔弓師　菖蒲冑刀鳥　心太師
かさ　クアニナラ
鍍銀偶人金　鏡自切紙の
目ぢ一の数小工之

右之家業に他ぞ船附事之舵とも
在家のもこ様と載と故救ろてかく

尾籠師　草履師　井戸堀　指物指ず
鄙邑

右比又ハ自造る事のきとのこ先に　雇ハ水やた他なく数とす
あるの工の材として他なるはあらず

藁苞屑　渋紙屑紙　灯心こき
屑拾　これ也よ京の人もし此類のものをすて紙ハ自らおちたる所の
市中一切の職のものを但屑など拾ひて職とする也是ハここにおいて
髪結　これ市職とあつし京などハ職分とする是をなす職分をハ
髪結所と彼ハれ是を職分を以て業とする也是に準して髪結とす
揚弓や　煮売
さゝめまくら　職人を雇ふ也　　細工　むらはき紙
ひきかくり　ひきまはり　まゆし　正斎より
かいこ紙り　是ひり細工ありこれハ細工より七条
紺職人出所也
衣職人出所より其所より蓋也職一家にて　活計より
当川へ参りし也を別より業あるく兼収するもあるへし

商類
乾物屋　味噌　綿粕屋　綿実より絞粕　薩摩屋　藍玉屋
画具屋　塩魚屋　乾魚　干物　木戸や　材木屋　普請之
陶器屋　絵ノ具屋　瀬戸物屋　俵屋　繩莚等
灰屋　中田の用　麦粉屋　麦粉の粕とり　牛の喰ひものとして
蘭売買　唐土蘭を業とするもの多し然れとも是くらいあるものゝ故わかれ記す
灯心売　商の類也　割粉売　煙草売　米糠売
大根屋売　夜之数多に保つ之　然して八京の多き也　傀儡師　金銀細
傀儡売　吹挿吹て児を招く一図也　京の商也　葉売　市中之辻売の杣之紙也　真綿する也商人とハ異なり

樋の挽賣　水吹竹筒ぬこれ者郷里のこと

閑屋　物を九州にうりあるく仲人中華の以て大方僧

すばい　西国を取次うりあるく中之者ろい女すばひ多くあり媒す

取賣　少なきものをうりあるく仲人有とも

情芳　馬をうりあるく仲人

易者　易者人を易筮仲人うりあるく物なれども媒をう類

有閑屋　ようあるを已り物を交易するを物をうる者を旅れ

とも市一等の商人商といとうつぎうりあるいすれいうり

又別の旅路の閑屋あり商家のいつる閑屋を呉服うり旅人

をよ閑屋閑屋を郷里を徒修一て馬荷駄を牽一あり旅人の用を

充一ものをうりこれ市一の九州ありうり商ふ船すして各自の

相同きハ即ちくを賣をとる者也

門乞類

越後獅子　孫引子　疫疹の守を門尾峠うりあること　笠襦

鬼毒　ちいさく切を　逸佛　卵を　記世婆　仏卵を

四国一　本出敬下扁に四を廻をるこ仏うを九い一ぱ竹を書ハ一ま

竹十本もつきをこをかの四あり市中品位のを敬下ありるハ

こをい廻一

喜弱　懸香賣　元和より来るこれ能陸筑紫ハ

實船賣　元和より来るこれ

大黒舞　神去十月こと　西宮ハ

ちいす舞　十月廿五日正すより来る

恵比寿の里のこと

秋葉代参　青ハ山ばりいくあり市中裸ちと程を著く近ちり

ちるこ程て行くあり

訂 本書圖を誤るもの

巻一

後ろの羽織袴ばかりなるを此人物の或るものあるを上下と著るべく更に座一茶堂坂中羽織大小帯を帯るべきを只羽織ハ一刀ばかりなるべし

巻二

連歌師これハ誤るものハ帽を被り付髭ハ俗のを食べるべき或るハ俗の今人乗駕の

人を画くべし是宗画なり　学者あるいは儒者を画
即昔のまねあらけて画を儒者に上下着て
可なり　等類は商人の画家の事なり商人の
と商賈のを記念をなすの作なり算勘せは算
なり先一人作を画くべし次に帯を前に立てる
中なる算本算盤布きるべて帳を前て結ぶれ
前後と翻　翻なり

巻三

杜人画坊為は樵夫と杜と作を知るるあ杜人あり

斧とをとりて側に大木の切倒しを画くべし
猪鹿しの為は為猪鹿を造て猪は貴は猪なり
角の鹿は今き人あるをまつるを画く画しの
角く二鹿をしるい何の鹿なるを知る

本書部類土器部類のもの

巻三　作業部　塩焼　炭焼　園庭　造形
土器師　焼物師　西庭　石切
右八事　皆工なり職なる明へし農人樵夫等と

混堂（ふろや）

古師

右は対馬より收出（きたる）藝（げい）ところ、西（にし）ものの名（な）の類（るい）多し。他藩の称（しょう）を略（りゃく）すべし

山椒皮　陰義（ぎ）　蕎麦（そば）　紙屑（かみくず）

右は本邦商人より商部（しょうぶ）に載（のせ）べし　作業の部（ぶ）

別（べつ）にあるべし

巻四　商人部　酒屋（さかや）　醤油屋（しょうゆや）　麹屋（こうじや）

味噌屋　麺類（めんるい）　焼豆腐（やきとうふ）師（し）　粉屋（こや）

蘭奢待

右九事自造製（じぞうせい）するもの即工部（こうぶ）商（しょう）に属（ぞく）す

酒醤油（さけしょうゆ）等（とう）は、ひらけ、書（しょ）を自造（じぞう）致（いたす）

即商（しょう）と称（しょう）れども、他（ほか）に出（で）ることなきを以（もって）

此項（このこう）に編（へん）す　清酒（せいしゅ）　石斛（せっこく）　高麗（こうらい）人参（にんじん）

二形（にけい）ともに商（しょう）にして妨（さまたげ）なし

右二事物品（ぶつひん）書（しょ）

商（しょう）物（ぶつ）の品（ひん）は、国（こく）ごとに異（こと）なる者（もの）多（おお）し

巻五　細工人部　彫師

右彫師市藝之細工とすべき藝業職を收むべし

巻六職部　風呂屋　銀屋

右二部工夫の職業職人等業を屬を
凡百種職業職業あり記載するに僅の屬す
不可詳すべき後編を見るべし

本書上層目録に出る品を掲るもの

七刀鍛	鍛冶	刀研	水研
鞘師	鞘師	研屋	研屋
提屋	塗師	紙子師	紙子師
陶泥師	轆轤掛	茶筅師	鞠裝束師
高麗師	小刀磨	昆布師	奥米師
釜蓋師	糸車師		
麩焼師	甚五郎師	鳥帽子師	
弦師	矢師の品を兼ねる	革師	革師

位牌師　名題　こかつら

考　本書目中書御所参考

烏帽子師　位牌師　鞘巻師
玉櫛　額彫　針師　漆針師
面打　素読師　象眼師　竹師
沙張　眉作　茶入袋師　茶筅師
楊枝師　胡粉師　胴人形師　陸尺師
楊弓師　形彫　雄蛇彫　琴師

鞦師　水引師　針線師　鞠師
左官師　香炉師　拙　張留
笠師　絵骨車師　泥間　瑜泥師
練加き　炭焼　菖根間　蘆根掘
少将屋　遊女　石蕗女　山椒問屋
法師陰陽師　法師陰陽師　飯つき　絵子買
知らやのあい　車巻

已上工商の部

計仏師　箒の作師　知らバ知る　弾たこき

便當郎　うそう　おさうみと　ともまし

已上門色の類

圖 本書載する所御俗時の所と同かるまる者

羽織 おき御はなと以す 所生まれとり　桶錢仰 西方にうつれと以す

礎 これ御里に以て都でまありてきには御食ふ のさうりがせの
盃礦とおありきてくま米 洗き紹附とうなりて 吉 所州て昔
あるしく冊物あとつにでおか雰事あて即立白之
御里はなとあとよいい今ハ宮まりぞ

麪麭 賣 こうの品よとんや

塩魚屋 ちょ出南部加く所生 所出村でもへし変にいさぞやとな

東帝 こむ山藪まりとて以す 即傀儡

きるあしう こうに切人と以す

阿り國 こうの如くそと以す 但古よ出お前の品と事もとハ同しうして
人の佐都 売すりこてまれうい 社生御之烏帽子ぞ

圖 本朝昔ありて今来らさる門色 今とハ宝暦乙亥西晩 付る

八挺加ら 古花街ふそまりの見れハ 八本年前まで在き

四まつし 金少時見るそまり 見れハ宝年西年り

あめうり　うてかり 同上

山猫まつし　たらう廻し そさてハ二年目まで 下ヨ前晩出回

孫獅子　兎華

遊似銅色　車箱

施餓鬼　鏡世諸佛 すらく姉色

代詩 そとよりえん 今ハ 宗国より古番

寒念仏類図　安こうり

ぎさらい　祭やくも　越獅子

嘉永六癸丑年四月十日寫　三國

御家年表

俳象年表

加賀藩
玉泉文庫

生
○及
□會
△畫
□編輯
△傳授
■事
□

寛永廿年癸未
○苔蕉翁生
○山口素堂生

正保元年甲申
○服部嵐雪生

二年乙酉
□三月十日山本西武會於京都始為子弟百韻

三年丙戌
□三月十七日上杉德定於花咲奉行
○森藤如泉生

四年丁亥
□七月二日美濃少掾
○池田言水生
○橘部竹翁生
○雉子屋移風生

慶安元年戊子
△子武百年忌
□百年忌十句影成

二年己丑
○高村和及生
○福田蝦石生

三年庚寅
○江左尚白生

四年辛卯
○千那法師生
○神戸定之生
○瀧方山生
○市川文平生
□御傘影成

承應元年壬辰
○英一蝶生
○向井去來生
○佐保介武生

永禄二年癸巳

[illegible]十五日於永自徳卒年八十三

○後會園女生

○青木春澄生

萬治元年戊戌

○青木鶯水生

[illegible]永昌三卒自徳[illegible]也

三年甲午

○服部[illegible]生

○小西茅山生

□正誤蓋一名世語撰皆童[illegible]

明暦元年乙未

○貴志治測生

○田中正業生

○椎本才雪生

二年丙申

○森川許山生

□五海集影成

三年丁酉

○第二世[illegible]井[illegible]志生

○井上道山生

二年己亥

三年庚子

○寺井西角生

□童蒙[illegible]子成

寛文元年辛丑

○稜木其角生

○文草生[illegible]

二年壬寅

○[illegible]沢[illegible]生

○[illegible]泉[illegible]生

○立羽不角生

□米方撰[illegible]子集

□雑井[illegible]今[illegible]撰

三年癸卯

○北條園水生

四年甲辰

○椎本芳室生

五年乙巳

□井上養殺

六年丙午

○高野石里生

○[illegible]田百合生

○其影生

七年丁未

□玉海集[illegible]成

□[illegible]大[illegible]波集刊成

八年戊申

○大矢自鶴生

九年己酉

□七月十八日未得紙[illegible]没年八十餘

○山本遠志生

□[illegible]盛撰便船集

十年庚戌

□其角十歳入大圓寺学詩

○植村信安生

十一年辛亥

十二年壬子

□三月七日[illegible]

家譜三楚王二年下

○樂園自[illegible]生

○[illegible]化生

○山口西生生

延寶元年癸丑

二年甲寅

三年乙卯

四年丙辰

五年丁巳

六年戊午

七年己未

八年庚申

天和元年辛酉

二年壬戌

三年癸亥

貞享元年甲子

二年乙丑

三年丙寅

四年丁卯

元禄元年戊辰

二年己巳

三年庚午

四年辛未

五年壬申

元禄六年癸酉　七年甲戌　八年乙亥　九年丙子　十年丁丑

十一年戊寅　十二年己卯　十三年庚辰　十四年辛巳　十五年壬午

十六年癸未　寶永元年甲申　二年乙酉　三年丙戌　四年丁亥

十五年戊子　六年己丑　七年庚寅　二年辛卯　二年壬辰

正德三年癸巳

○正木亂成生

三年戊戌

十月三日香田正宜

六月十九日大我[illegible]

七月十四日[illegible]

十月二日翠墓拔

四年己亥

十月廿日言水[illegible]

十月九日天野那薩

○建部源伴生

五年庚子

七月廿日曲翠殁

八月十五日道山[illegible]

六年辛丑

○立圓[illegible]

七年壬寅

○銀塔若

七月九日[illegible]

享保元年丙申

○菜山[illegible]

○謝蕪村生

二年丁酉

二月十七日下邑[illegible]

八月十五日素堂号今

四月廿二日[illegible]

○炭太祇生

八年癸卯

二月廿日志邑無倫

四月十七日十郎治部

八月三日正秀[illegible]

二月九月堂

九年甲辰

十月十三日英一樂

七月廿日河東[illegible]

十月廿一日心保[illegible]

十年乙巳

四月九日菊在亭秋色

七月廿日河東[illegible]

九月十日河西一峯

十月廿六日[illegible]

十三年戊申

二月十五日福田鞭谷

十月二日堀内雲夏

長島甘谷殁

文塙[illegible]和五十二

剃髪

十四年己酉

閏九月晦日山本[illegible]

須弥仏殁年八十一

十月[illegible]

十五年庚戌

三月十八日滑見[illegible]

四月七日松[illegible]

七月十七日愚堂殁

八月八日[illegible]

十月二日桂花亭佐藤

五月廿二日[illegible]

十六年辛亥

二月十日[illegible]

五色墨成

十七年壬子

十月十三日[illegible]

九月十日[illegible]

十八年癸丑

二月十五日福田[illegible]

十月二日[illegible]

十月[illegible]

十九年甲寅

二月廿三日正由殁年[illegible]

四月廿日圓[illegible]

七月廿日[illegible]

七月七日[illegible]

○芭蕉翁三十三年忌

六月二日空[illegible]十作

月[illegible]松[illegible]

二月[illegible]

二十年乙卯

二月廿二日雪堂高野

十二月[illegible]

七月廿日[illegible]

十一月[illegible]

二十一年丙辰

二月廿日[illegible]

十月廿日[illegible]

二十二年丁巳

十月廿二日雪堂高野

十二月[illegible]

二十三年戊午

二月十三日[illegible]

九月十日[illegible]

二十四年己未

二月[illegible]

二十五年庚申

二月[illegible]

二十六年辛酉

二月[illegible]

二十七年壬子

二月十三日[illegible]

九月十日[illegible]

享保十八年癸丑

三月廿六日百姓園吉木
鷺水殺年七十六
四月廿三日稲津祐空
小人殺年七十三

三年戊午

四月一日椎本才蔵文字少
殺年八十三
七月三日宮村蘭殺年
九十五
七月廿三日木者竜湖
十殺年六十
八月十日長谷川上島
殺年七十八
七月十日澤川若鼠
霊文道殺年三十三

四年己未

八月八日麥林舎宗
乙由殺
十月廿七日黄志須
殺年八十五
十月角凡雪世三年忘

五年庚申

四月三日野坡殺
七月十二日雅春清水
起波殺年二十六
十月十二日寸松堂
知名殺年四十

寛保元年辛酉

十月十二日蹲別殺年
六十五

二年壬戌

十月五日椿庵原松
殺年四十八
六月廿七日鼎泉早野
巴人殺年六十六
六月廿七日別所庵桂東
殺年六十三
八月四日貞蟲殺年
八十

享保十九年甲寅

四月十日千山紀伊国
屋文左衛門殺
四月十日小山夏佐
殺
六月三日宍島大圭
殺号鈴鹿

二年乙卯

四月一日殺年八十六
六月二日五味春堂殺

元文元年丙辰

八月廿三日四時堂其影
殺年七十一
九月三日坂上松泉僧称小
殺年五十三

二年丁巳

十七日横村信安
殺年六十八
十月十六日東谷堂春
其碁名殺

三年庚午

正月廿五日宗因
殺年八十
三月三日野坡殺
七月十二日雅春清水
起波殺年二十六
十月十二日寸松堂
知名殺年四十

寛延元年戊辰

十月十二日蹲別殺年
六十五

二年己巳

十月廿五日椿庵原松
殺年四十八
十月廿七日鼎泉早野
巴人殺年六十六
十月廿七日別所庵桂東
殺年六十三
十月十日貞蟲殺年
八十

三年辛未

四月廿日百年堂之市夏
殺年五十三
四月廿三日素堂羽紅殺
年四十七
八月廿三日宝井其角
殺
芭蕉翁百年忌

延享元年甲子

四月廿六日竜田大立
殺
七月朔日第一世宋川
家瑞三郎兵衛殺
十月六日蘆中号廿六
殺年四十四
二月十九日六玄春色翁
殺大酒

二年乙丑

三月十三日万亀堂海
徳殺年四十四
年武二百回忌

三年丙寅

九月十四日一四軒数殺
年三十八
九月廿七日清雪庵
白鷗殺年七十九
十月四日貞五堂乾降
殺年二十四
十月廿六日万元貞金
毛殺年八十

四年丁卯

八月八日塵之亭角上殺
年七十二
六月三日改堂殺
十月十四日霍下菴
洛水殺
十月六日一軒貞徳殺
年六十八
十二月廿七日四時堂米史
殺年四十四
十月十日蘆之坊里紅
殺
五月廿七日逸志庵殺
七月廿五日其考殺

寛延元年戊辰

十月朔日四時堂高光殺
柳居殺
十月二日廿夏全殺
十月廿二日花雷舎絶窟
殺年七十四
十月十九日年々翁
雲雄殺年七十一

二年己巳

八月十五日千蟹郎生殺
年四十九
十月四日元春園吉道
殺年六十九

三年庚午

三月朔日黄雷舎鶴人
殺年四十二
十月廿六日東園谷百羽
殺年六十四
八月廿四日三村圓蔓山
殺年四十四
七月十日暮雄堂布囲
殺

寛暦元年己未

九月朔日鶴堂高光殺
殺年四十四
九月四日下天狗谷殺
三月十日鼎貞庵殺

續五色墨城
二条瑞竜元 研象
夢太 竹河

二年壬申

七月廿九日御射山羽羅人
殺年四十四
十月廿日東谷百羽殺
年六十三

百徳百回忌
六月廿日又春舎金
巴雄殺

寶暦三年癸酉

四年甲戌

五年乙亥

六年丙子

七年丁丑

八年戊寅

九年己卯

十年庚辰

十一年辛巳

十二年壬午

十三年癸未

明和元年甲申

二年乙酉

三年丙戌

四年丁亥

五年戊子

六年己丑

七年庚寅

八年辛卯

安永元年壬辰

安永二年癸巳

四月二日望雲庵節士歿

随古歿

宗鑑百五十回忌

三年甲午

三月十八日吸露庵凉袋歿年五十六 初号葛鼠後改凉袋 又號寒葉齋

十月廿二日秋瓜歿

四年乙未

五月廿二日坊歿年六十四

九月八日千代尼後改素園歿七十四

録舟歿

仙[illegible]歿

修古歿

五年丙申

十月六日三浦樗良歿 勢州人

村田車用歿

嵐任歿年七十五

雪堂歿年六十

六年丁酉

歌川越前三国歿

蝶泉歿年五十七

大谷眠菴[illegible]歿年八十一

文石[illegible]

七年戊戌

六月十六日伽羅庵小宋百萬歿

北米歿年五十七

澄里歿年三十九

金映歿年四十七

六月十九日[illegible]生

六月廿日清白堂旦水歿

八年己亥

七月廿日眉庵田女歿

七月廿七日敬堂文石歿

中井羅院歿

松本百花歿

十月廿二日[illegible]歿

九月二日梅花庵五暁歿

九年庚子

九月廿一日竹尾樗蜂房伊丹人歿

五湖庵東之歿

天明元年辛丑

四月廿九日風律藝州人野坡門歿

九月十日諸九尼歿

二年壬寅

十月廿日有無庵馬場存義歿年八十

十一月十二日麥水加州人歿

十一月廿九日無文庵谷口[illegible]川歿

北村隆雅歿

三年癸卯

六月十六日暮水翁横井也有歿年八十二

十二月廿九日謝無村歿年六十八

二月廿八日新花林[illegible]砂[illegible]月歿常[illegible]

二月二日東巴[illegible]北[illegible]

[illegible]

四年甲辰

松風亭吟霞歿

五月廿四日斤山[illegible]歿

[illegible]

芳三世宗瑞十三年忌

五年乙巳

六月田可[illegible]歿年五十八

橙雨歿年六十四

六年丙午

米路歿

[illegible]

布[illegible]歿

七年丁未

正月十三日加藤巻阿[illegible]

二月廿九日百花[illegible]

九月七日雪中庵[illegible]蓼太歿

正月十六日[illegible]白[illegible]年四十九

八年戊申

[illegible]松庵野村其梅歿年七十七

化[illegible]五[illegible]歿年六十八

寛政元年己酉

九月九日倉橋芦伊[illegible]歿

子鳥歿

[illegible]石歿年八十八

十月廿二日夜半亭[illegible]歿

二年庚戌

六月十二日芋日菴[illegible]

六月十七日三里[illegible]

[illegible]人歿

三年辛亥

九月十三日春秋庵白雄歿

九月十九日[illegible]歿

九月五日[illegible]歿

四年壬子

正月七日暮雨巷[illegible]

七月十二日[illegible]歿

寛政五年癸丑

六年甲寅

七年乙卯

八年丙辰

九年丁巳

十年戊午

十一年己未

十二年庚申

享和元年辛酉

二年壬戌

三年癸亥

文化元年甲子

二年乙丑

三年丙寅

四年丁卯

五年戊辰

六年己巳

七年庚午

八年辛未

九年壬申

文化十年癸酉

九月三日黄龍庵住六
歿
十一月八日若翁偉賀上
歿

文政元年戊寅

九月一日素月尼恒九
歿
九月六日本多忠村上
道彦国別歿年七十三
豊山慈恵大僧正
為印

十一年甲戌

二月十五日第三世松井
宗瑞白日晩園人和尚
歿
八月廿日二蘆庵栗田
穂堂息隠陽別歿
十月十七日建部巣兆
名英興字庚久歿
号和香三庵

二年己卯

△蔡太三十三回忌
十月二日秋芳号花歿

十二年乙亥

△米仲孝四回忌
正月十二日湯四宝来
歿

三年庚辰

正月十五日太白堂菜石
桃歿年四十三
四月十七日春日復谷
歿年廿三
六月二日花蘭十歿
歿
常瑞年九十

十三年丙子

正月廿日西湖庵大綱
白其歿年八十三
十月十九日四山道人
夏目成美名鶴造字
隨斎又号蓮年歿
通称義左衛

四年辛巳

△第二世宗瑞五十年忌
五月一日席月庵春鶯
歿年四十二

##十四年丁丑

四月十八日空花庵士雲
中庵宗素歿
六月十六日道元居士邑
白寿坊炊信歿
七月七日卯將庵山
路遠之歿年七十二

五年壬午

△千那正秀百年忌

十六年癸未

正月四日笠世庵天斎
四鳴蔡和尚桃素
歿年五十三
六月五日芳歿
七月九日乙二坊愁窓
白石人
八月八日谷素外一鼎
歿年九十八

十七年甲申

八月七日雪鎮庵栗崖
野馬白草伊人斎
忠右衛門歿年
七十九
閏八月廿二日塩田真
歿年八十余

十八年乙酉

三月三日婆亭佛鶴人
歿
十月一日東義人非人
歿
十月十八日徳田椿堂
号東竹庵
長光仲庵
歿

十九年丙戌

三月廿九日曙庵秋聲
三列
歿
八月同日今日庵一歌
歿
四月廿三日孝園白鷺
歿年四十九
十月八日夫木庵菅川
歿年七十三

十年丁亥

三月廿七日八景庵鴎鳴
歿
十月十九日俳諧茶
人
歿

十一年戊子

八月十八日椿亭吉野
太郎
絶号
歿
十月日本橋九流園
号
歿

十二年己丑

十月七日八巣樹井
蕉雨
歿
十月香馬佛
歿

大塙雄飛
号山城
八幡
歿
十月日本橋樹村
歿
九月十七日大巣
歿
九月
布能九郎
歿

天保元年庚寅

十月四日早川漫
歿年
歿年

二年辛卯

十月十日珊瑚井森川
歿年八十八
十月十二日文翁三橋
歿年八十三
花城
杉凡百回忌

三年壬辰

十月八日玄寿羅小河
雨堂
歿年七五
十月十七日八衆園
家
歿年七十三
又庵秋田知足
歿

天保四年癸巳

九年戊戌

十年己亥

十一年庚子

十二年辛丑

十三年壬寅

五年甲午

六年乙未

七年丙申

八年丁酉

十四年癸卯

十五年甲辰

嘉永元年戊申

二年己酉

三年庚戌

四年辛亥

五年壬子

二年乙巳

三年丙午

四年丁未

嘉永六年癸丑

安政元年甲寅

二年乙卯

三年丙辰

四年丁巳

五年戊午

六年己未

萬延元年庚申

文久元年辛酉

二年壬戌

三年癸亥

元治元年甲子

慶應元年乙丑

二年丙寅

三年丁卯

明治元年戊辰

二年己巳

三年庚午

四年辛未

五年壬申

六年画

八月廿八日 神佛養
芸里七十四ノ
九月廿八日 [illegible]
物程送第本五ツ年

右ハ細楚忠陳先生ノ寫
原本巻尾如左
懋天齋著述目錄
晉子一傳錄
懋天集
郝西亭代便覽
李子寿木草
天保六乙未二月

上木
近刻
仝 中本
仝
在上 上世 懋天齋豊山著

右ハ[illegible]借用ス

右豊山稗行の小摺本を朝倉氏に借りて写す原本撰名を
出さず唯発句を後に記し其中附姓名字号郷貫等を後に入し
且記載詳略あり書法甚だ乱雑なり今写するに諸く
発句を出だし姓名を後にし文の通じ難きは其意を改め
其餘は皆原本に従ひ畢竟其無文の従の編纂する所要は
考索删補して次第を訂し體裁を改めて以て善本と
成さんと欲す

原本は天保を末に出す今空欄を其後に置ひて他日
追加の用に備ふ

明治壬申仲秋八日

牧羊野老

姓名発句不分明の郷人多し猶其子孫に就て訂正を待つ

○入江浦大圓寺墓中に石に彫りて建（眉山子栽入道之墓）自是建と云
傳説に全林肥後熊本の藩中の士有故流浪老後於此邑被 [illegible]

卜也可新

○続年矢部前集 [illegible]

蘭秀軒横部和七日

猿酒の七日とおもりぬ秋二月 [illegible]

[illegible] 秋の七日忌

[illegible] 如鳥 [illegible] 甘湖

同十七年 [illegible] 上達殿

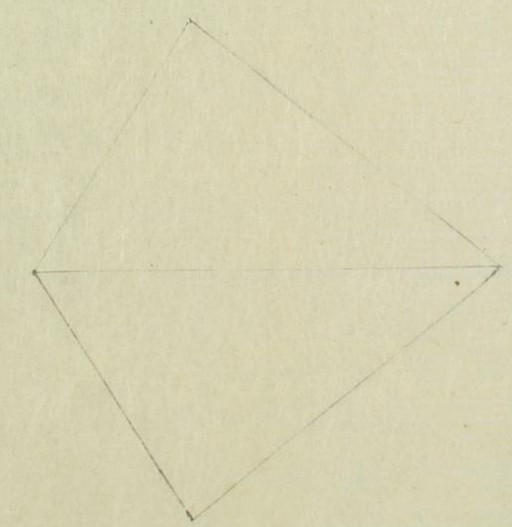
[illegible] 前 [illegible] 亮女

縁 [illegible] 如 [illegible] 如羽

蓮左旧記に古渡村に横船氏 [illegible]

[illegible]

横船氏は吉田文次男



蓮月
式部

二女和歌集

二女和歌集

春

霞

[illegible]

霞中梅

[illegible]

梅花

[illegible]

霞梅

[illegible]

小西甚蔵

梅

[illegible]

桜

[illegible]

古寺春

[illegible]

山霞

[illegible]

高島武郎

松上霞

[illegible]

野外霞

[illegible]

紅梅

[illegible]

山家鶯

[illegible]

若菜

[illegible]

春雨

[illegible]

山吹

早蕨

遠山

里の春雨

春雨

春月

三月三日

花の影

古寺春雨

暮春

花時遠行

武部

春の夕

桃

春雨

惜春

三月末

夏

首夏

蓮

新樹

初時鳥

暁時鳥

月前恋

[illegible]

[illegible]

夏山家

[illegible]

故郷野鳥

[illegible]

[illegible]

南北朝鳥

[illegible]

葵

[illegible]

早苗

[illegible]

[illegible]

山杜月

[illegible]の田面の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

扇

[illegible]

秋

月[illegible]

蓮丹

[illegible]

秋の夜の[illegible]

[illegible]秋のよ[illegible]丹

[illegible]

[illegible]丹

海上月

菊

菊

菊

岡中秋

武蔵

武蔵

武蔵川

武蔵

武蔵

武蔵

武蔵

冬

冬山家

蓮月

[illegible]

冬雪

[illegible]

海の雪

[illegible]

初雪

[illegible]

雪

[illegible]

水上雪

[illegible]

[illegible]の年の[illegible]

[illegible]

武蔵

[illegible]

山路雪

[illegible]

海雪

[illegible]

冬中雪

[illegible]

冬説

[illegible]

雪中雲情

[illegible]

冬中月

[illegible]

憲

[illegible]

蓮有

いつさいこの[illegible]

武郷

寄車恋

[illegible]

寄笛恋

[illegible]

寄里恋

[illegible]

[illegible]

夜雨暁夜

[illegible]

春日旅

[illegible]

冬旅

[illegible]

雑

山家

[illegible]

蓮月

[illegible]

寄若葉風

[illegible]

松上鶴

[illegible]

恋

[illegible]

竹

竹

式部

松延齡

官許

明治元戊辰年十二月新鐫

弘通　京都三条通柳馬場東入ル

堺屋仁兵衛

書林　同　二条通河原町東入ル

綿屋喜兵衛

月三十首歌和歌

朝日月

道政

重雄

香木

[illegible]

[illegible]

幸文

豊秋の二つ岡の山もとの[illegible]

文負

あしのはに[illegible]

柳枝

[illegible]

白河

二日月

[illegible]二日の宵[illegible]二葉の

月のうつりをたのしみ[illegible]

右旋

新編二百の月

[illegible]

文負

[illegible]二百の月[illegible]

香木

[illegible]

豊秋

[illegible]

幸文

[illegible]二日夜の月

三日月

[illegible]

西園

春江

玉雄

白河

美觀

柳枝

四日月

春江

孝夫

西園

西園

幸夫

玉雄

五日月

[illegible]　　美龍

六月

[illegible]　　白河

[illegible]　　右旋

[illegible]　　直政

[illegible]　　[illegible]行

七日月

[illegible]　　春江

[illegible]　　[illegible]

[illegible]　　文旦

[illegible]　　柳枝

[illegible]　　信啓

八日月

大神の岩戸あけてや星の影
さやけき月を見ることもなし　久
中々に萩の葉うらに月さえて
かくれ八日の月ぞさやけき　柳枝
ありあけのやどりの月はさもあらばあれ
かたかけし夜やさぞ見ゆらん　春江

九日月

紫のうすし友ちやしんこころもなく
このかたに影ひかる月入りもやらで　童雄
長月のここぬかの月は雲もなし
菊の白露とぞみゆるらん　文貞

みちのりや秋の夜は九の夜の月　美観

十日月

たしかなる松の葉ごしに見ゆる月
とおくのぞむ湖の海辺の月　美観
都まで十日あまりの月影を
あかで見る今宵の月の影　春江
かぞへ見れば十日の月の宿りかな
月の光に照らす今宵　香木

十一日月

十日あまりひと日もおちぬ今宵かな
月影もかくれぬ影ぞありあけの空　童雄

[illegible]　柳枝
[illegible]　白河
[illegible]　信啓

十二日月

[illegible]　白河
[illegible]　春江
[illegible]　秀東

[illegible]　幸天

十三日月

[illegible]　直政
[illegible]　幸夫
[illegible]　玉雀
[illegible]　森房

十四日月

白河
美親
玉雄
貞俊
直政
貞俊

十五日
天の
空の夜は
二年ぶり一夜の名残惜しき

春江
貞一
梅園
美親
白河
玉雄

十六日月

[illegible]の月の光いたるの山のたに
[illegible]
月[illegible]
さらのうらぬ[illegible]
[illegible]
きの[illegible]

梅園
古旋
信啓

十七日月

十日あけぼの[illegible]
東[illegible]の月もいでぬ
[illegible]の山の[illegible]
[illegible]

美親
柳枝

あり[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

豊秋
玉雄

十八日月

夜[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

豊秋

貞一

[illegible]

柳枝

久

十九日月

[illegible]

久

右旋

香木

重雄

廿日月

[illegible]

重雄

西園

負俊

春江

負一

柳枝

廿一日月

右旋
白阿
美觀
春江
身俊
直政

廿二日月

章夫
白阿
十右旋
森房
無名

廿三日月

載牛

自一

春水

幸夫

西園

豊秋

廿四日月

春江

美親

百阿

真名

廿五日月

載牛

梅園

文貞
春江
香木
西園
直政
身名

廿六日月

重雄
豊秋
香木
春江
久
載守

廿七日月

[illegible]

森三方

廿夜あり　[illegible]

右旋

都へ　[illegible]

白河

廿日あり　六面の夜の海さえて

幸文

[illegible]

西園

[illegible]

直政

廿八日月

[illegible]

幸文

[illegible]

豊秋

[illegible]

香木

西[illegible]

負一

[illegible]

白河

廿夜あり　八面の[illegible]

右旋

廿九日月

小子島の宮の神殿手
[illegible]の月　玉雄
天の[illegible]の月　文負
[illegible]　春江
[illegible]　負俊
一夜二夜[illegible]　豊秋
[illegible]　重雄

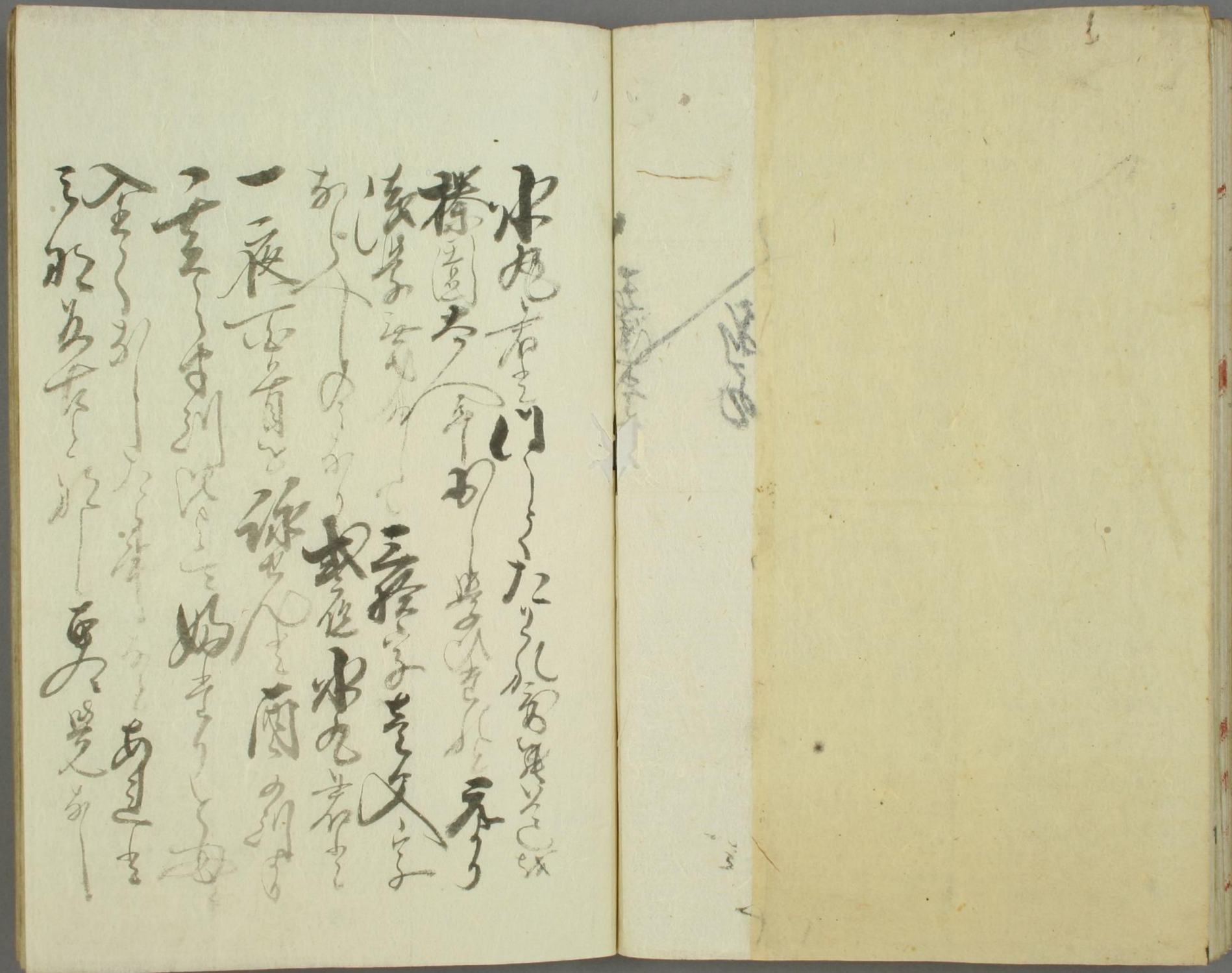
晦日月

久方の天つ日嗣と[illegible]
[illegible]の月　直政
月の[illegible]の[illegible]　豊秋
[illegible]　春江
[illegible]　石所
[illegible]　載守
[illegible]　春房

月をのこす月の張りとなる
水面の月は堂々たるさまなり

有茂

魁本初學集



[illegible]

張加

連歌亭

業旦

[illegible]

侍従

[illegible]

行燈の四方を明く、行燈ハ長きさふさしもいと
釣来乃る時、行燈ハ高きとも柱に本を出す
行燈の朧なる我影を君のまくらも添ひ
春まで忍ひ待帆に友を恋しく待あかしぬ
行燈にあの障ハ行燈きたる是なさきの夜
ひとり寝の影に行燈出ぬ雨も夏ならん
行燈子と云の姉人目と咲きにほひ見せん

槿

旭に見するあたなも散るや一日の命も見る朝顔
雲にまさる朝顔花やさき咲そめて
朝顔の行けるも昔や今朝も花ハ一時
　　落紅の白露
門さきに母を待つ夜に見えてあたらしき花の

波路海士人の漕舟の春さかり
雲の下荷川の舟の蔵のあたり
糸舟し船ハ浅まちの帆に帆柱を立て
右のかハ田の面に見えて浦なみ
しるよみさかれ
赤鳥に云ハひとり我身又恋もならはず
さ後ろを業平の[illegible]出来ぬハ心のさすらひ
行舟の波ハ雨もつらく川をこえて思ひます
いかなる浮船の挿も花のさ今宵ぞ恋しくれ
赤鳥と云ハ名にはまたを恋る人を忍ぶ
　　歳暮
年の暮桃灯多く出まして我をさそひ
さ川に掛の住家に年の暮咲き花ぞ悲しき

[illegible]

年の若き者也　[illegible]

年身（ねんしん）の[illegible]

[illegible]

昔或寺の和尚[illegible]

[illegible]

力とれ長へて[illegible]

[illegible]

たゆまんといまうへ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寄鏡意

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寄紙意

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

塔永

[illegible]

菊

[illegible]

茸將

[illegible]

祈恋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

仲丹波下ると潰ハたるとして君の親ハ田ことなり

賞

鶯ハ梅ハ鶯ハ梅の木に鳴ハ梅の木に鳴ハ人しらぬ春

今盛りなるとて歌の賞ハ四季ハ梅ハ

梅

我ハ梅ハ梅ハ梅ハ梅ハ梅ハ梅ハ梅ハ梅ハ梅ハ梅ハ

寄月雪

大空の月ハ雪ハ月ハ雪ハ月ハ雪ハ月ハ雪ハ月ハ雪ハ

暮恋

我恋ハ月ハ月ハ月ハ月ハ月ハ月ハ月ハ月ハ月ハ月ハ

あハぬまハ月ハ月ハ月ハ月ハ月ハ月ハ月ハ月ハ月ハ

あくるまハ月ハ月ハ月ハ月ハ月ハ月ハ月ハ月ハ月ハ

我ハ月ハ月ハ月ハ月ハ月ハ月ハ月ハ月ハ月ハ月ハ

あつる春の日へと今ハ春ハ春ハ春ハ春ハ春ハ春ハ

昌平坂学問所の六十の賀を祝ひ

国の為ハ六十年ハ月ハ月ハ月ハ月ハ月ハ月ハ月ハ

いとも厚き六十の文字の六歌ハ月ハ月ハ月ハ月ハ

歳暮

それぞれ年ハ月ハ月ハ月ハ月ハ月ハ月ハ月ハ月ハ

人ハ五の孫ハ月ハ月ハ月ハ月ハ月ハ月ハ月ハ月ハ

しりそれ

大ハ五の鬼ハ月ハ月ハ月ハ月ハ月ハ月ハ月ハ月ハ

賀

万代ハ月ハ月ハ月ハ月ハ月ハ月ハ月ハ月ハ月ハ

待恋

待ハ月ハ月ハ月ハ月ハ月ハ月ハ月ハ月ハ月ハ月ハ

[illegible]

秋ノ月

[illegible]

おなし

[illegible]

寄銀札恋と人のあらはれし

[illegible]

[illegible]

朝顔

[illegible]

[illegible]

歳旦

門[illegible]

[illegible]

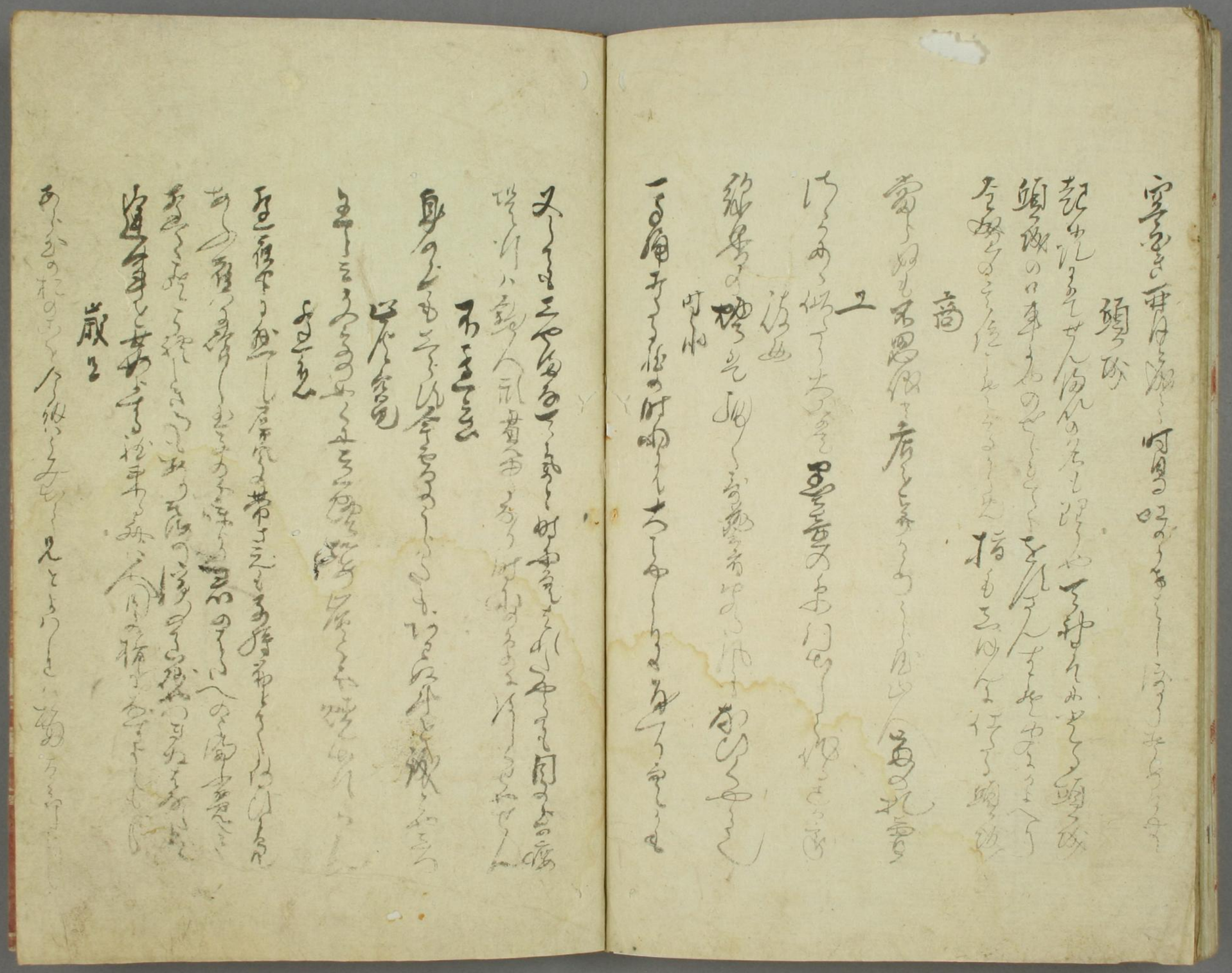
月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

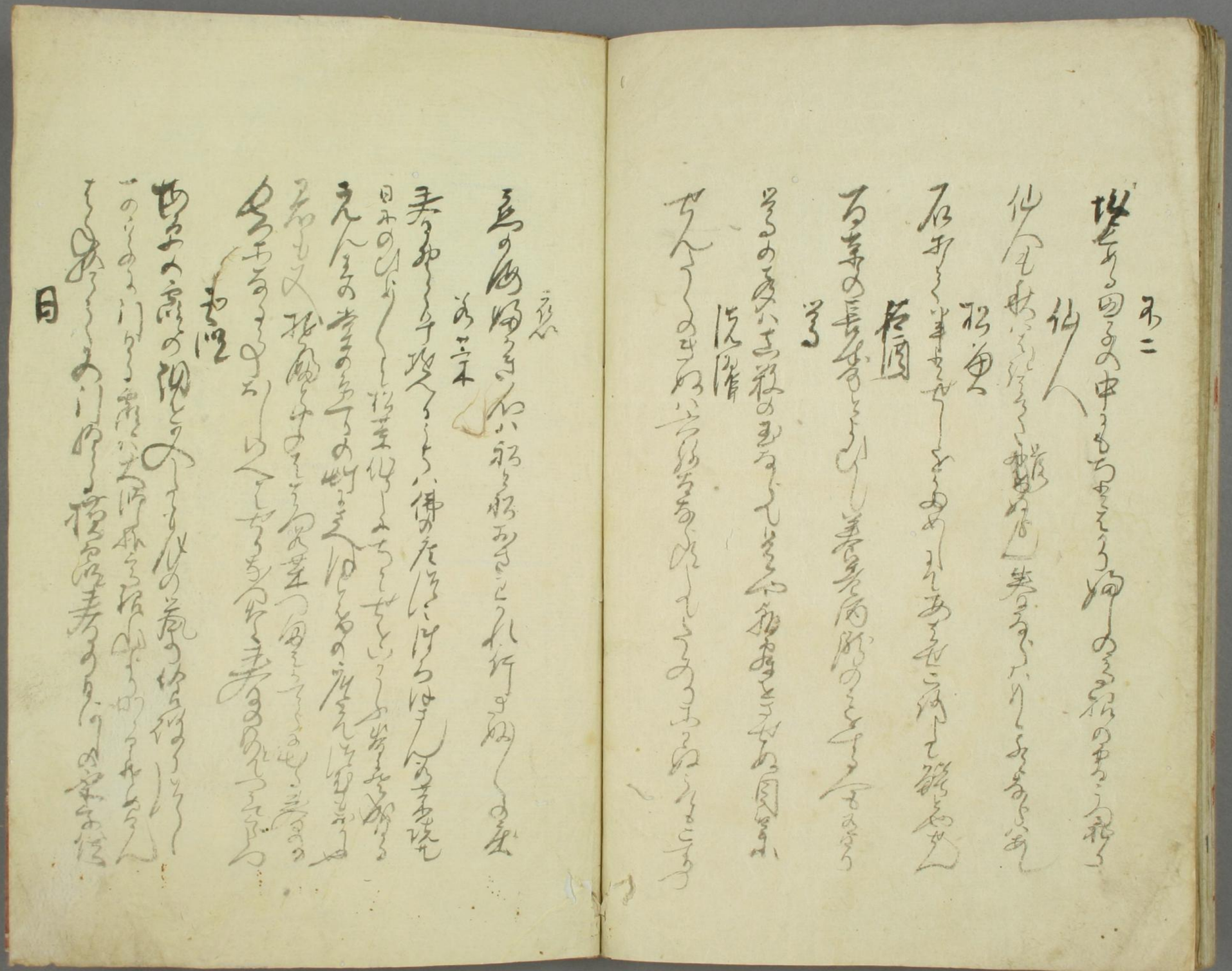
[illegible]



[illegible]

[illegible]

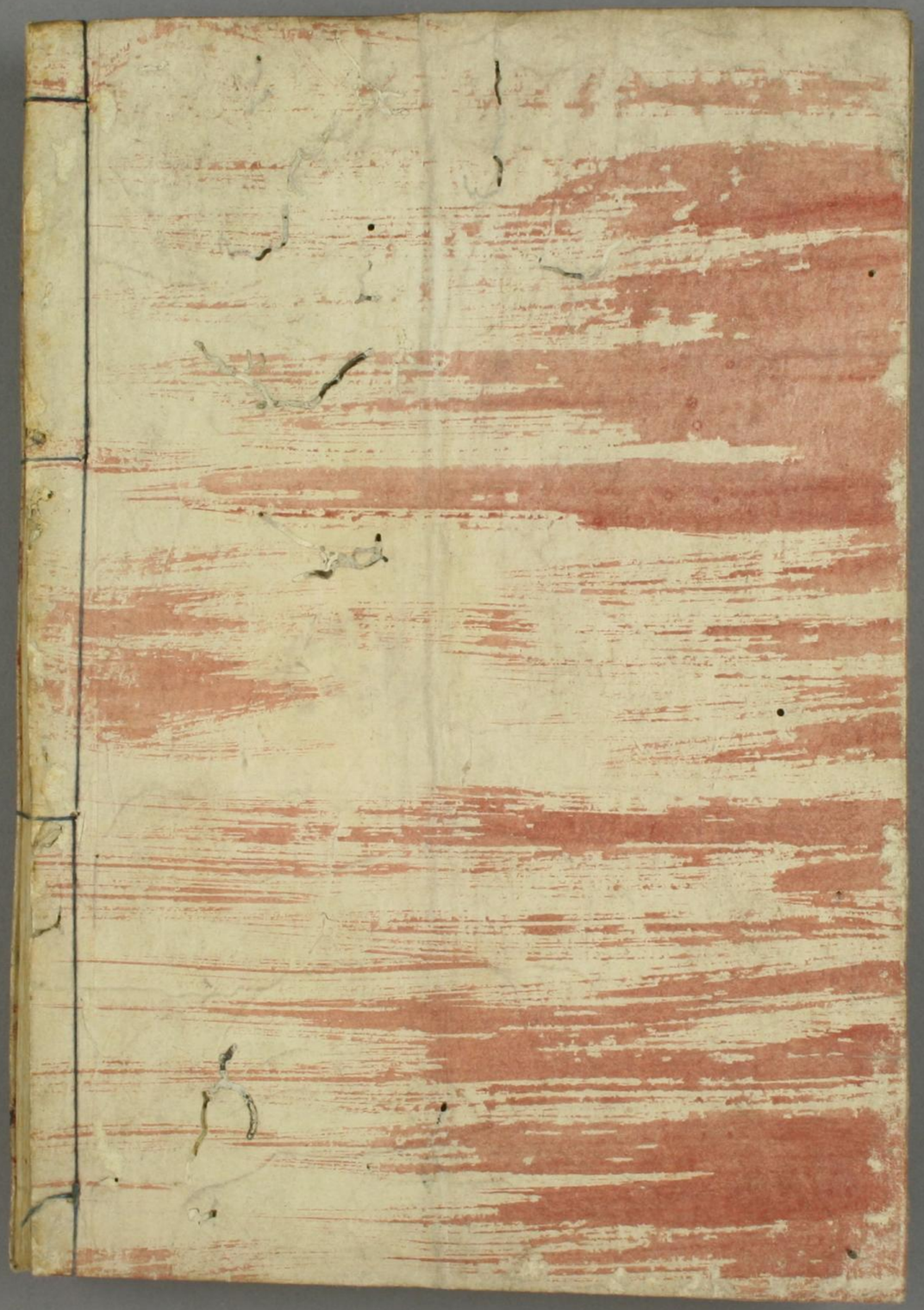
[illegible]



[illegible]

梅

[illegible]

秀雅

[illegible]